

HU-plus

January 01
2024

Hiroshima University Magazine vol.23



人々の健康な暮らしを支える
新しい畜産の取り組み

[CROSS TALK+]

俯瞰で捉え、本質を見極める。時代を見つめる鋭い眼差し。

フリージャーナリスト 池上 彰氏 + 広島大学 学長 越智 光夫

[特集] 世界に挑む広大 #6

世界の“食”を守るために

— 広島大学の畜産研究に迫る —



Message from President



皆さんの声は 光り輝く大学に向け大きな力に

広島大学は今年11月5日に創立75周年、1874年の最も古い源流の白鳥学校の開校から数えると150周年の節目を迎えます。これまで皆さんからいただいた多大なご支援に感謝して、昨年「広島大学創立75+75周年記念事業」をスタートし、周年を盛り上げてきました。4月はシンポジウム「核兵器の廃絶に向けて」、6月は東京で大学の魅力を紹介するイベント「広島大学in東京」、さらに11月には、平和の尊さを改めて知る「吉永小百合さんによる朗読会」など、さまざまな形で記念事業を展開してきました。

今年は75周年本番です。1月は、国際交流イベント「NORTH & LATIN AMERICAN SATURDAY」、6月は、「広島大学in関西」、9月には、「広島大学in東京」など、創立記念日の11月5日に向け、多くの分野や地域でさまざまな講演会やイベントなどを計画しています。これらの取り組みを通じて、広島大学を皆さんにより知っていただくと共に、全ての学生の皆さんから「広島大学で学んで良かった」と思ってもらえるよう、教育力、研究力をより強化し、国際競争力をさらに高め、光り輝く大学にしていきたいと考えています。

そこで、今回は、本学をより良くするためのアイデアを同窓生、保護者をはじめ本誌読者の皆

さんから広く募集したいと思います。異なる立場や視点をお持ちの皆さんの知恵や、創造力を生かした提案をお寄せください。業務に集中するあまり、視野が狭くなりがちな担当者に代わり、すばらしいアイデアをきっとお持ちです。ある会社では、商品企画・開発する部門だけでなく、パートを含む全社員からアイデアを募った結果、毎月150-200件もの新商品の提案が寄せられるようになり、多くのヒット商品が生まれたそうです。

どんな小さなアイデアでも構いません。広島大学がより身近な存在になるためには、どんな試みができるでしょう。例えば、地域をもっと元気にする取り組みや、75周年を盛り上げる試みなど、自由な発想をお寄せください。全てが実現可能か否かは分かりませんが、本学がより良くなり、皆さんと本学との絆がより深められることを期待しています。

こういったアイデアは、本学にとって大変貴重です。皆さんのご提案により、学内に活気が満ち溢れ、研究や教育への意欲がさらに高められることを期待しています。今回のアイデア募集は、広報室:koho@office.hiroshima-u.ac.jp宛てにメールをお寄せ下さい。必ずお返事いたします。

越智 光夫

Your ideas are the driving force behind Hiroshima University's pursuit of excellence.

Hiroshima University (HU) will celebrate its 75th anniversary on 5th November this year, and 150 years since the opening of the Hakushima School, the oldest source of the university, in 1874. In appreciation of the generous support the university has received from everyone so far, it launched the 'Hiroshima University 75+75th Anniversary Commemorative Program' last year, celebrating the anniversary by holding, among others, the following commemorative events: a symposium in April called 'Toward the Abolition of Nuclear Weapons'; the 'Hiroshima University in Tokyo' event in June to introduce the charm of our university in Tokyo; and a 'reading session by Sayuri Yoshinaga' in November to remind people of the preciousness of peace.

As this year marks the 75th anniversary, various events or lectures will be organized between now and the 150th anniversary on 5th November 2024 in many different fields as well as parts of Japan. For example, the following are on the agenda: in January 'NORTH & LATIN AMERICAN SATURDAY' (an international event); in June 'Hiroshima University in Kansai'; and in September 'Hiroshima University in Tokyo'. Through these events, I would like everyone to get to know Hiroshima University more. At the same time, in line with our ongoing striving for excellence, I intend to further strengthen the university's educational and research capabilities, enhance its competitive edge on the global stage, so that our students will feel 'happy to have studied at Hiroshima University'.

Therefore, we would like to invite alumni of HU, parents of HU students, and the readers of HU-plus, to submit their ideas about improving the university from a wide range of

perspectives. It would be good to receive your wise and creative suggestions, in the knowledge that you represent a variety of positions and perspectives. Unlike those in charge who tend to be so focused on their day-to-day work rather than the bigger picture, I am convinced that you have innovative ideas.

One company has apparently received 150-200 new product proposals every month as a result of soliciting ideas not only from staff in the product planning and development department, but also from all employees, including part-time workers, resulting in and the creation of many hit products since then.

No idea is too small. What can we do in an effort to make Hiroshima University more accessible? For example, I would like to hear your ideas on how to energize the local community, and about how to make the 75th anniversary of HU more exciting. I may or may not be able to implement each and every idea or proposal, but I hope that a self-improvement culture like this will make our university better, while also deepening the ties between you and the university.

These ideas are very valuable to the university. I hope that your ideas will help to create a lively atmosphere within the university and that they will further boost the motivations of our faculty members regarding research and education. Therefore, please send your ideas to the Public Relations Office at koho@office.hiroshima-u.ac.jp. I will make sure that the relevant department responds to you.

Osaki Miteno



【Hiroshima University】の魅力や情報をあなたに“プラス(+)”、【HU】とあなたが“つながる(+)”という願いを込めて。



広島大学が誇る酪農・畜産研究。附属農場などの施設と連携し、食料安全保障問題の解決に貢献します。

CONTENTS

- 01 散詩語録
- 03 CROSS TALK+
フリージャーナリスト
池上 彰氏 +
広島大学 学長
越智 光夫
- 07 特集 世界に挑む広大 #6
世界の“食”を守るために
—広島大学の畜産研究に迫る—
- 11 持続可能な未来のヒント
広大 もったいなれっじ
- 13 AERAが書く 研究者の素顔
- 15 HIRODAI GLOBAL
- 19 こちらダイバーシティ&
インクルージョン推進機構!
- 20 HIRO-DAI HEROES
- 21 卒業生インタビュー 私も広大です
- 23 HU-style
- 25 HU TOPICS
- 27 キャンパスNOW
- 28 読者アンケート・プレゼント
- 29 広島大学への寄附・基金

広島大学SNS

Facebook: 広島大学 (Hiroshima University)

X: @Hiroshima_Univ

LinkedIn: 広島大学 | LinkedIn

YouTube: HiroshimaUniv

Instagramでキャンパスの日常を
配信中



大学紛争を乗り越えて 身に付けた独学力

越智 まずは池上先生の生い立ちをお聞かせください。どんなことに興味を持つお子さんでしたか。

池上 とにかく活字が好きで、新聞や本をたくさん読んでいました。中でも小学校6年生の時に出会った『続 地方記者』という本は私の人生を決定付けた一冊です。自分の足であちこちを巡って取材する新聞記者の姿が魅力的に映ったのを覚えています。

越智 報道への情熱は幼い頃から育まれていたんですね。そんな幼少期を経て、慶應義塾大学の経済学部に入学されました。

池上 実は、当初は東京教育大学を受験しよう

と思っていたのですが、筑波移転反対闘争が勃発して入試が中止に。方向転換して東京大学を目指していたところ、安田講堂の攻防戦が起きてまたもや受験を断念せざるを得なくなりました。慶應義塾大学へはそんな紆余曲折の末に入学したのです。ところが入学直後、今度は慶應でバリケードストライキが始まってしまいました。せっかく大学に入ったのに、当時はまともに講義も受けられませんでした。

越智 学生運動のあおりを直に受けられたんですね。授業もままならない中、どのような日々を送られたのでしょうか。

池上 大学へ行っても講義が始まらないわけですから、自分で経済学の専門書を買集めて、一生懸命学びました。あとは同じ境遇の級友と読書会を開くなどして、何とか知識を得ようと

頑張っていました。大変な大学生活でしたが、反面、あの経験が独学の基礎となって生涯役に立つ力になったと思います。

越智 あの時代でしか得られないご経験です。ただ受動的に教えを受けるのではなく、自律的に学ぼうとする姿勢は学生の皆さんにも積極的に身に付けてほしいと考えています。

地方都市が育んだ、 社会全体を捉える視点

越智 大学卒業後はNHKに入局されました。幼少期は新聞記者に憧れていたようですが、テレビ局への就職とのことで、何か心情の変化があったのでしょうか。

池上 就職活動を始めた1972年、世間はあさま山荘事件の話題で持ち切りでした。それまで

ほとんど事件報道を取り上げていなかった各テレビ局も、これをきっかけにニュースを大きく扱うように。「これからはテレビが報道の主役となる時代が来る」と感じ、NHKへの就職を決意しました。採用後は必ず地方勤務から始まるNHKは、地方で働く記者になりたいという私の理想にもぴったりだったのです。

越智 情報媒体の移り変わりも繊細に感じ取っておられたんですね。入局後はご自身の望み通り、島根県松江市に配属されました。

池上 人口規模の小さい松江市では、放送局も限られた人数で運営します。そのため、警察署や地方裁判所、地方検察庁など、初年度から多くの分野を担当しました。翌年には市役所も任せられ、さらに1年後には県庁や農業協同組合、日本銀行もカバーするなど、あらゆる方面の報道を担うようになりました。

越智 わずか3年で多くの行政・司法機関や各種団体などを経験されたんですね。まさに地方記者ならではの面白さといったところでしょうか。

池上 そうですね。大阪に赴任した私の同期は、6年間の勤務で警察のみを対象に報道を続けていたそうですから。短期間で社会のさまざまな側面を知り、政治や経済の仕組みを俯瞰して学べたのは貴重な経験でした。

本当の教養とは何か

池上 地方勤務を経て、最終的には東京本社の社会部に異動して警視庁や気象庁、文部省(現文部科学省)などの報道を担当しました。

越智 文部省担当時代には、1987年に国立大学の入試改革の現場を取材し、受験機会の複数化の決定をいち早く報道されたそうですね。ご自身は改革についてどう感じられましたか。

池上 入試改革は本当に難しいのだなと思いました。変遷をたどると、1949年から続いていた一期・二期校制度が「区分に学部の偏りがある」「大学間の学歴差別を助長している」として共通第一次学力試験制度に変わったものの、今度は各大学が標準化して覇気が無くなってしまふ、という状況になりました。一筋縄ではいかない



フリージャーナリスト

池上 彰 いけがみ あきら

長野県松本市出身。慶應義塾大学経済学部卒業後NHKに入局。報道記者や番組キャスターを務め、2005年にフリージャーナリストとして独立。『伝える力』『おとなの教養』『そうだったのか!現代史』ほか著作多数。



広島大学 学長

越智 光夫 おちみつお

愛媛県今治市出身。広島大学医学部卒業後、整形外科に入局。1995年島根医科大学教授。2002年広島大学大学院医歯薬学総合研究科教授に就任。広島大学病院長を経て2015年から現職。2015年に紫綬褒章を受章。

俯瞰で捉え、本質を見極める。 時代を見つめる鋭い眼差し。

池上 彰氏
フリージャーナリスト

越智 光夫
広島大学 学長



おり、「ものごとのHowも大事だけれど、Whyを考えるのを忘れないでほしい」と常に訴えています。

池上_全くその通りです。私はよく「教養は知識の運用力だ」と表現しています。知識を詰め込んだだけでは教養人とは言えない。肝心なのは知識をどう使っていくかです。

のだなど、現場を間近で見て感じましたね。

越智_私も日本の入試制度にはまだまだ課題があると思っています、中でも「知識詰め込み型」入試の定着を問題視しています。

池上_世間の人々を見てると、文系と理系のいずれかに知識が偏ってしまっているのを感じますね。受験対策として、多くの高校で低年次から受験科目のみに特化したカリキュラムが普及したことも影響しているのでしょうか。私は現在、東京工業大学で現代社会論の特命教授として教壇に立つこともあるのですが、理数系分野で飛び抜けた才能を持つ学生が人文社会系の素養を全く持ち合わせない、といった事態は珍しくありません。



越智_そういった学生たちに、改めて社会科目の基礎を教えておられるわけですか。

池上_はい。講義では、今起きているさまざまな事象には全て歴史的な背景があるのでという事実を、実感

を持って学べるように教えています。また、いつも彼らには「あなたが社会に出た後、人間としての姿勢が問われる瞬間が必ず来る」と投げかけています。研究者や技術者として、自身の築き上げた成果が社会に役立っているか、悪影響を及ぼす恐れはないか。それを判断し

て、正しい道を選ばなければならぬ時が来ると。その判断を適切に行うためには、理系や文系にとらわれず、あらゆる分野の教養が必要不可欠になります。

越智_私も大学では自分で考える力を身に付けてほしいと考えて

✕ もう一つの「核の抑止力」

越智_2023年5月、G7サミットが広島で開催されました。本学も開催記念シンポジウムや学生ボランティアの参加などを通じて本サミットの運営に協力し、各国に向けて平和活動の重要性を訴えました。

再び世界の安寧が危ぶまれている昨今の世界情勢に対し、池上先生はどのようにお考えでしょうか。



池上_ある国が核

兵器を保有し、他国を牽制することで全面戦争を回避する考えとして「核の抑止力」という言葉がニュースや新聞などで見受けられますよね。しかし、この言葉にはもう一つの意味があると私は思うのです。すなわち、被爆者の言葉の力です。広島や長崎の被爆者の方々は、原爆が人々にもたらした結果を78年間絶えず発信し続けてきました。長崎以降、世界で一度も核兵器が使用されていないのは、各国がその言葉を重く受け止めた結果の表れでしょう。世界平和にはこの後者の抑止力を存続することがますます重要になると思います。

越智_そうですね。被爆地に立つ大学として、これからもその抑止力が損なわれることのないよう全力を尽くす所存です。最後に、池上先生から若い世代へアドバイスをお願いします。

池上_「書を持って旅に出よ」という言葉を贈ります。ひとたび社会へ出てしまえば、落ち着いて本を読む暇などほとんどありません。たっぴりと時間をかけて本を読み、知識を広げながら、社会を巡り新たな観点を得る。そうして身に付けた知識をどんどん使って、教養を自分のものにしてください。

越智_本日は貴重なお話をありがとうございました。

もっと Plus な 広大

池上彰氏と越智学長の対談内容に関連して、広島大学をもっとよく知るためのTOPICSを紹介。あなたにも社会にもプラスになる大学の取り組みや魅力をお届けします。

PLUS [Educational Vision]

教科の枠を越えた学習者主体の学びを教育現場に広めるために

大学院人間社会科学部研究科の附属教育研究施設である広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)では、「STEAM教育」および「IB教育」に関する研究を推進しています。「STEAM」とは科学・技術・工学・数学に「Art」を加えたものの、「IB」は国際バカロレア機構が提供する国際



HP・SNS・書籍など、さまざまなメディアを通して情報を発信しています

的な教育プログラムのことです。これらは現代社会の課題に挑戦すべく、文理横断で学習者の主体性や探究心を重視した教育を展開しています。当センターは、先端的な教育研究で得た知見を、セミナーやカリキュラムの提供を通じて実際の教育現場に還元。「生徒主体の探究的な学習活動について、具体的に理解できた」などの声をいただいています。今後も教育の新たなデザインを提案していきます。

PLUS [Writing Center]

あらゆる学術文章の作成を 広く戦略的にサポート

広島大学ライティングセンターでは、論理的で説得力のある学術文章を書けるよう、一緒に検討やサポートをするチューターによるライティング相談、英語論文作成相談などを行っています。提出された文章ファイルにコメントをつけて返却するサービスも。執筆前の構想段階から完成まで、どのタイミングでも相談できます。



論文の構成についてアドバイス。ぜひお気軽にご利用ください

Voice 良い論文のため 最後まで伴走します



論文の完成度に合わせ、適切なアドバイスができるよう心掛けています。大切なのは、何を主張すべきかを明確にすること。論文には基本的な型があります。型をきちんと守り自分の主張が伝わる良い論文を、一緒に作っていきましょう。

ライティングセンター 副センター長 河本 健特任教授

PLUS [Reporter]

在学生ならではの発信で 大学広報に新しい風をもたらす

広島大学では2017年度より、「学生広報ディレクター」制度を取り入れています。広報誌の企画や取材、記者会見のお手伝い、オフィシャルグッズの着用モデルなど、活動内容はさまざま。学生独自の視点を生かし、大学の取り組みを発信します。



7月の学長定例会見では、周年事業グッズの着用モデルを務めました

Voice 大学の魅力が伝わる 対話重視の広報を 届けたい



自分が通う大学の良さを自ら発信できることに惹かれ、応募しました。広報活動において多くの人との対話が重要視される今だからこそ、学生の等身大の声を生かして、大学の魅力を学内外に広く伝えていきたいです。

総合科学部総合科学科 3年 草野 櫻子さん



特集 | 世界に挑む広大 #6

世界の“食”を守るために — 広島大学の畜産研究に迫る —

食料安全保障では米や麦など穀物の供給がよく取り沙汰されますが、人間の体には、肉や魚や卵、乳製品などに含まれる動物性たんぱく質も欠かすことができません。開発途上国を含めた地球上の全ての人々が十分な栄養を摂取し、世界から飢餓を無くすために、どのような技術や施策が求められているのでしょうか。今回の特集では、畜産業に改革をもたらす広島大学の研究について取り上げます。

畜産研究が目指す“食”の安全・安心

畜産業の新技术開発によって 開発途上国の食料安全保障に貢献

2023年7月、越智学長は広島大学が重点的に取り組む5つの事項「President 5 Initiatives for Peace Sciences—新しい平和科学(安全・安心を実現する「創る平和」)—」を公表しました。あらゆる分野の研究者が集まる「総合知」の強みを生かし、教育・研究活動の成果を通じて大きな社会的変革を主導し、人々に安心をもたらすことを目標としています。5つの課題のうち1つは、畜産業改革による食料安全保障の実現。開発途上国を含め、世界の人々が十分な栄養を得られるよう、食料の安定供給を目指して畜産研究を進めています。

〈“平和を創る”広島大学の5つの重点研究〉

- イノベーションと経済安全保障に貢献するための半導体エコシステム形成
- ワクチン、医薬品開発、再生医療、細胞治療を通じた地球規模の健康安全保障への貢献
- 平和のための総合的な放射線災害管理
- 海洋・海事のガバナンスと持続可能性のためのアジア拠点形成
- 途上国の栄養改善に資する畜産業改革による食料安全保障

雌雄の産み分け技術を開発し、乳製品の安定供給に貢献

X精子とY精子を分別する 簡易な手法を開発

家畜の経済的価値は、雄と雌で大きく異なります。例えば、乳牛の場合は生乳を生産する雌の価値が高く、選択的に雌を生ませる必要があります。

哺乳類の卵子はX染色体を、精子はX染色体かY染色体を持っており、XXであれば雌、XYであれば雄が生まれます。私は精子の機能差を研究する過程で、あるたんぱく質がX精子にはあるがY精子にはないことを突き止めました。そこで、薬剤を用いてX精子の運動速度を遅らせ、X精子とY精子を分離する手法を開発。必要な方の精子を回収して人工受精を行うことで、雌雄の産み分けに応用できることが分かったのです。

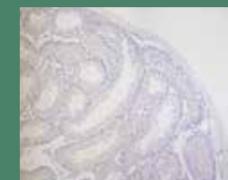
従来技術より時間的・費用的コストが低く、作業が簡単な点が画期的だと注目を集めており、開発途上国での実用化が期待されています。また、これまで産み分けが難しいとされてきた豚などの家畜や、イルカなど家畜以外の動物にも応用できるよう研究を進めています。

貧困層の栄養改善から 酪農家の収入向上まで実現

乳製品は動物性たんぱく質を含み、貧困層の栄養改善に有用な食品ですが、インドでは人口爆発により乳製品の供給が追いついていません。また、ヒन्दゥー教の影響で雄の乳牛を処分できず、街中に野良牛が増加するという問題も起こっています。インドで雌の乳牛だけを増やすため、ビル&メリンダ・ゲイツ財団から多額のご寄附をいただき、牛の雌雄産み分けの実用化研究を急ピッチで進めています。

日本においては、乳牛の雌だけでなく黒毛和牛の受精卵を用いて黒毛和牛の雄を産ませることで、小規模酪農家の収入アップにも貢献できます。

雌雄産み分け技術だけでなく、広島大学では附属農場をはじめ酪農・畜産に関する研究が多数行われています。それらをひとまとめにして世界に提供し、食料安全保障の観点から技術をアピールしていきます。



精子の動き(上)や精巣の組織(下)を顕微鏡で確認しながら研究を進める



島田 昌之 教授
大学院統合生命科学研究所
専門分野は、農学・動物生命科学。

広島から世界に食料の安全と安定供給を。

世界中の人々が十分な栄養を得るには、宗教的禁忌が少ない卵や乳製品が重要な役割を果たすと言われています。広島大学のさまざまな研究拠点で、卵や乳製品をはじめとした食料安全保障に関する研究が進められています。

1. 広島発のゲノム編集技術によってアレルギーを含まない鶏卵を開発。

日本人の食物アレルギー原因の1位は鶏卵だと言われています。特にオボムコイドという成分にアレルギーがあると、鶏卵を使用するケーキやかまぼこなどの加工食品も食べられなかったり、インフルエンザワクチンが打てなかったりと、生活に大きな影響を受けます。

私は、広島大学が特許を持つPlatinum TALENというゲノム編集技術^{ブラチナ ターレン}を利用し、オボムコイドを含まない鶏卵をつくりだしました。従来の技術では意図しない箇所が編集される「オフターゲット作用」^{ブラチナ ターレン}の発生が課題でしたが、Platinum TALENを用いたことでオボムコイドフリーの鶏卵はそれをクリアできました。はじめから実用化を見据えて研究を進めたため、安全性については特に留意していたのです。

ゲノム編集技術を使った食料生産の新しい取り組みとして、国内外から大きな反響がありました。今後は実用化を目指して、安全性の確認や生産ラインの整備などを慎重に進めていきたいと思っています。



堀内 浩幸 教授
大学院統合生命科学研究所
専門分野は、農学・動物生命科学。



ヒヨコはある程度育つまで研究室で管理

Bio-Digital Transformation (バイオDX) 産学共創拠点



畜産・酪農研究分野

畜産・酪農研究分野は、家畜の飼養管理やDX酪農、繁殖技術、メタンガス排出抑制などに関して、国内トップレベルの研究力を誇っています。産官との共同研究を通して大規模な実証試験を実施し、基礎研究から実用化技術開発まで一貫して取り組んでいる点が特徴です。畜産・酪農を新たな産業と化し、アジア地域をはじめ世界に貢献することを目標として研究活動を進めています。



生物生産学部 附属農場



瀬戸内CN国際 共同研究センター



ベトナムサテライト キャンパス

5. 研究成果をベトナムに。途上国で生産を担う人材育成を目指す。

食料の安定供給のためには、世界中の各地域に適した畜産の技術開発と、その技術を用いて生産を担う人材の養成が必要です。広島大学はベトナムの農業農村開発省と連携し、博士後期学生のためのサテライトキャンパスの設置を進めています。畜産・酪農研究分野や附属農場、瀬戸内CN国際共同研究センターの研究成果を中心に、畜産の高度化だけでなく、農業のDX化や干ばつ・塩害に強い稲作などに関する教育・研究を進め、途上国への知識や技術の普及を図っています。

3. 高温地域での生乳生産技術を開発し、貧困層にも十分な栄養を。

乳製品は良質な動物性たんぱく質を含むことから、貧困層の栄養状況改善のために需要が高まっています。そこで、開発途上地域である南アジアやアフリカなどの高温多湿地域において、暑さに弱い乳牛が効率的に生乳を生産できる技術開発が必要です。

生物生産学部附属農場は、西日本最大規模の酪農に特化した研究施設。ここでは、高温地域で乳牛を飼育できる牛舎の構造や送風システムの開発をはじめ、乳牛の呼気に含まれる温室効果ガスを低減する飼料の開発など、環境・飼料・行動・疾病と多面的な研究が行われています。今後は酪農の省力化・スマート化のために情報科学や工学との異分野融合を進めつつ、高温地域での乳製品の安定供給を目指します。



農場内の牛舎



牛舎内の様子

4. 農業に適さない土地でも、穀物(飼料作物)を栽培できる技術開発に取り組む。

瀬戸内カーボンニュートラル(CN)国際共同研究センターでは、瀬戸内圏の豊かな生物多様性を守りつつ、持続可能な発展を支える教育・研究を行っています。特にグリーンイノベーション部門では、中山間地域などの条件不利耕作地に耐性を持つ稲に関する研究実績を有しています。その研究成果を、ベトナムをはじめとした途上国で実際に応用し、安定した作物栽培の実現に貢献します。

Hint 11

子どもたちの 明るい未来への 一歩を支える

溝口 洋子 助教

PROFILE | みぞぐち ようこ
大学院医系科学研究科に所属。小児科診療医として臨床に携わる傍ら、小児血液・腫瘍、免疫学を専門に研究している。近年の主な研究テーマは希少疾患の遺伝子治療開発。



【遺】 伝子編集技術で新治療法の開発に挑む

私は広島大学病院の小児科診療医として臨床に立ちつつ、小児期に発症する先天性の免疫疾患についての研究も行っています。近年では特に、先天性好中球減少症という病気の治療法開発に焦点を当てています。現在は主に骨髄移植による治療法が適用されていますが、他者由来の細胞を移植することは拒絶反応などの大きなリスクが伴います。さらに骨髄移植時に用いられる強い抗がん剤投与による合併症も問題視されています。

この現状を打破するために開発を進めているのが、新たな遺伝子編集技術を活用した治療です。自身の細胞の一部を取り出し、病因となっている遺伝子をピンポイントで修復することが、近年開発された高度なゲノム編集技術で可能となりました。患者自らの細胞を活用するため拒絶反応が発生する可能性が低く、また強い抗がん剤投与による合併症を避けることが可能です。

【社】 社会が一つになり、病気と闘う子どもを支える

しかし、新治療法の実用化には長い時間を要します。今も闘病中の子供たちを支えるために、社会の理解とサポートが不可欠です。例えば入院中の学習について、小学生・中学生には病院で授業が受けられる院内学級制度がありますが、高校生以上の学生には存在しません。代わりに一部の高校では授業のライブ配信などを行っていますが、闘病生活では体調が優れず授業への参加自体が難しい日もあります。こうした取り組みだけでは学習の遅れをカバーすることが難しい中、入院中の生活に合わせた学習サポート体制の構築が大きな課題となっています。また、退院後に通常の生活に戻るた

めにも多くの支援が必要。広島大学病院ではそのうちの一つとして「復学カンファレンス」に取り組んでいます。患者が退院し学校に戻る際、担当の医師や看護師などが教員に身体面や学習面の現状を共有し、安全・安心に学校生活を過ごす準備をするのが目的です。

幼少期の入院経験は学習の遅れだけでなく、行事への参加機会や友人との交流の喪失につながります。この孤立感が復学や社会復帰の妨げとなるケースも少なくありません。読者の皆さんには、この現状を理解し、子どもたちの不安を軽減する手助けをしてほしい。「自分は一人ではない」と感じさせてあげることが、必ず心の支えとなります。



研究で使用する遺伝子導入装置。CRISPR-Cas9で編集した遺伝子を細胞へ注入し、適応を目指す

広大

もったいなれっじ

【持】 持続可能な
未来のヒント

広島大学の研究室では、SDGsの達成に貢献するさまざまな知が日夜生まれています。読めば必ずためになる、こんなに魅力的な研究を知らないなんて、もったいない！



放射光を用いた観測装置。中央の機構にある超高真空環境に実験対象となる物質を入れ、その電子状態を観察する

12 物質が秘める 無限の可能性を 見いだす

黒田 健太 准教授

【夢】 の性質「弱いトポロジカル絶縁体」

光沢や透明という光学的性質、電気を通す・通さないといった電氣的性質など、物質にはさまざまな特徴があります。物性物理学ではこうした性質の発現メカニズムを調べ、新しい物性の創出や制御を目指しています。物性物理学ではあらゆる物質が研究対象なのですが、その中でも、私は「トポロジカル絶縁体」を専門に扱っています。トポロジカル絶縁体とは、金属・半導体・絶縁体に加わる新たな電氣的性質の区分のことで、表面にのみ電気が流れる不思議な性質を持っています。

今回私たちの研究チームが観測に取り組んだのは、トポロジカル絶縁体の特徴が局所的に現れる「弱いトポロジカル絶縁体」と呼ばれるものです。理論的には存在が予想されていましたが、結晶のごく一部にしか性質が発現しないために観測が非常に難しく、これまで発見された例はありませんでした。しかし、ナノ顕微・角度分解光電子分光と呼ばれる実験手法を用いて、物質の電子状態を直接観測することで、我々は世界で初めてこの物質を発見したのです。

【新】 たな情報技術の突破口を求めて

なぜ私たちは「弱い」トポロジカル絶縁体の観測に力を注いできたのか。理由は、あらゆる情報デバイスの性能を飛躍的に向上させる可能性を秘めているからです。トポロジカル絶縁体には、表面にスピン流と呼ばれる電子の特別な運動が現れるという特異な性質があります。スピン流は電気抵抗によるエネルギーロスがなく、電力供給が途絶えてもその性質を保ち続ける不揮発性を持っています。これを利用すれば、デバイスの電力消費を大幅に削減できるのです。しかし、これまでの「強いトポロジカル絶縁体」にはあらゆる方向にスピン流が発生してしまい、技術応用が難しいという課題がありま

した。これに対し「弱いトポロジカル絶縁体」は電子の動きが一方向に制限され安定しており、制御も容易です。実用化の道りはまだまだ長いですが、新たなデバイス開発に大きく貢献できるでしょう。

今回、弱いトポロジカル絶縁体として観測できたのはビスマスハライドという物質。実は研究対象として長年扱われていたにもかかわらず、実用性は全く無いと考えられていたものでした。トポロジーという新たな捉え方次第で物質の隠された可能性を見つけられることが物性物理学の面白さの一つ。これからも物質の可能性を模索し、引き出す研究を続けていきます。



PROFILE | くろだ けんた
大学院先進理工系科学研究科 物理学プログラムに所属。物性物理学を専門領域とし、トポロジカル物質、磁性体や超伝導など、さまざまな量子物質が示す現象に関する研究をしている。



今回は、目に見えない原子の世界で発生する現象から、子どもたちの健康を守る医療の開発まで、幅広い研究内容を集。より良い社会をつくるためのカギをさまざまな分野から探してみましよう。

AERAが書く 研究者の素顔

研究者は普段どのような一日を送り、研究に取り組んでいるのか。学問との出会いや、探究の原動力は何だったのか。人物、スポーツ、文化、政治、経済、事件…幅広いジャンルを取材するAERA記者が研究者の素顔に迫ります。

【AERA】
「時代」をキーワードに独自の切り口で描くニュース週刊誌。国内外の重大ニュースから身の回りの小さな出来事まで「時代」を敏感にキャッチし、独自の視点で掘り下げた記事をお届けしています。

微細な半導体デバイスの
製造工程や評価モデルで
実際に役立つ技術を開発する。



ナノデバイス研究所
寺本章伸 所長・教授



てらもと・あきのぶ/1967年、三重県生まれ。1990年、東北大学工学部電子工学科卒業。92年、東北大学大学院電子工学専攻博士課程前期修了、三菱電機LSI研究所入社。2001年、東北大学大学院電子工学専攻博士課程後期(社会人コース)修了。東北大学未来科学技術共同研究センター教授などを経て、19年、広島大学ナノデバイス・バイオ融合科学研究所(現・ナノデバイス研究所)教授。21年、同所長に就任。

厚さ10ナノメートルの 薄膜を積み重ねる

日本トップクラスのスーパークリーンルーム(無塵室)などの設備を持つ広島大学ナノデバイス研究所。「実際に役立つ技術の開発」を目指す寺本章伸所長は、スマホやパソコンといった情報端末、家電製品、自動車などに使われる半導体デバイスの研究を続けている。

半導体デバイスの一つ、LSI(大規模集積回路)は、シリコンウエハー(基板)の表面上にトランジスタなどの電子部品を配置した薄膜を数十層ほど積み上げて作られる。

「一つの薄膜の厚さは数ナノメートルから数100ナノメートル(1ナノメートルは10億分の1メートル)で、一つのLSIには100億個ものトランジスタが使われるという微細な世界の研究になります」

半導体業界では、省電力で、より小さな半導体デバイスの開発が進む。トランジスタが微細化すればするほど、薄膜を合わせるのが難しくなり、ズレが生じやすくなる。設計通りの性能も出ない。「どうすれば合わせずなしに薄膜を積み重ねることができるか」。寺本所長の研究テーマの一つだ。

真面目に、長い時間をかけて 研究することが大切

半導体デバイスの評価モデルの確立も重要となる。半導体デバイスに使われている部品は10年間持つように作られているが、「実際に10年間持つのか」。出荷前に評価する必要がある。

通常は約1カ月間程度以下の時間で、実際の使用条件を超える電圧や温度の負荷をかけて評価を行い、デバイスの劣化を予測する。しかし、寺本所長は民間会社勤務時代、3年もの時間をかけて実験データを取ったことがある。3年間という期間は業界の常識と比べると長い、より信頼性の高いモデルを開発できると考えた。

「常識にとらわれず、真面目に長い時間をかけて研究することが大切だと今でも考えています」

寺本所長が半導体の研究を始めたのは東北大学4年のとき。恩師の故・大見忠弘氏との出会いがきっかけだった。半導体製造用のスーパークリーンルームを日本の大学で初めて作ったことで知られる大見氏の研究室は、朝9時から夜12時まで研究を行っていた(当時はそのような研究室が少なくなかった)。

「楽な研究室もありましたが、大学4年から修士課程までの3年間くらいは朝から晩までみっちり研究するのがいいかなと思ったのです」
修士課程1年のとき、半

導体デバイスの製造に必要な、絶縁体薄膜の研究に没頭した。半年間、朝9時から夜12時まで研究しても「絶縁性のない絶縁体」しかできない日々が続いた。民間企業出身の研究員のアドバイスも得て、ある日、ようやく「絶縁性のある絶縁体」を作ることに成功した。

「いくら研究を続けても成果が出ない期間があるものですが、自分の考えた通りの結果が出る瞬間がある。それが研究の醍醐味です」

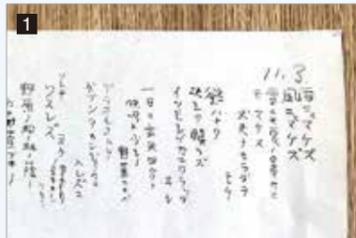
半導体工場から出る 廃棄物をゼロにしたい

2023年4月、半導体業界の将来を担う人材の育成などを目指し、広島大学ナノデバイス研究所を中核とする産官学の「せとうち半導体共創コンソーシアム」が設立された。寺本所長はこう強調する。

「半導体工場から出る廃棄物をなくすゼロエミッションを実現するのが私たちの目標です」

若いころから一日中研究のことを考えるのが楽しかった。「ゲームをやめられない人と同じです」。リフレッシュする必要も特に感じなかったが、最近は研究を離れて、プライベートの時間も楽しむようになった。毎年、日本画家・平山郁夫の故郷、広島県尾道市にある平山郁夫美術館を訪れているという。

取材・文/朝日新聞出版 西島 博之



1 10年ほど前に岩手県の宮沢賢治記念館を訪れた時に手に入れたもの。目標として教授室に飾っている

2 仙台市に行きつけの居酒屋があり、40~70歳の仲間たちと親睦を深めている。8月には大曲花火大会を観覧した

地球規模のトピックから地域密着のエピソードまで、
広島大学の取り組みを GLOBAL (国際) と LOCAL (地域) の両面から
紹介するコーナーです。

「UPWARDS for the Future」に参画 広島から半導体産業を盛り上げる

世界に広がる半導体産業 多様性や協調性がカギに

広島大学はマイクロンメモリ ジャパン株式会社などのパートナーシップに基づき、日米半導体連携「半導体の未来に向けた人材育成と研究開発のための日米大学パートナーシップ」に参画しました。このプロジェクトでは、半導体分野において多様な人材の育成を力強く推進することと、研究開拓を振興することを目的としています。

半導体産業はグローバル化した世界の中で成り立つ産業です。例えば、マイクロンメモリ ジャパン株式会社の親会社であるマイクロン・テクノロジー株式会社は、世界中に研究施設や生産拠点を有しています。さまざまな国籍やバックグラウンドを持つ従業員が働いており、世界各地に取引先があります。半導体産業をリードする人材には、専門知識のみならず、さまざまな考え方や背景を

持つ人々と共に働くための協調性が求められているのです。

広島大学は、男女共同参画、障がい学生支援および特別支援教育の分野で、日本でも先進的な業績を挙げてきました。さらに2016年にはダイバーシティ研究センターを設置。多様な価値観や背景を持つ人々と協働するスキルやリーダーシップの養成を推進しています。こうした取り組みが本プロジェクトへの参画につながりました。

日米の交流で 学生の新たな可能性を広げる

今後、本プロジェクトを通して、日米における新たな交流施策を実施します。本学の学生を米国の大学に派遣することや、米国の学生を受け入れる機会も増えるでしょう。本学学生には、米国の学生と切磋琢磨し、学習・研究を進めながら、さまざまな経験を通じて多様性、平等性、包摂性を身に付けることが期待されます。また、ダイ

バーシティ研究環境の実現によって、STEM (Science: 科学, Technology: 技術, Engineering: 工学, Mathematics: 数学) 分野での多様性に富む人材の育成にも積極的に取り組んでいきます。



締結式はG7サミットと併せ、2023年5月21日に広島市で開催



締結式後のプレスカンファレンスにはバイデン米大統領も同席

ムス大学の考古学者であるマムドーハ・エルダマティ博士の対談、最新のピラミッド研究成果の発表など、広島大学とエジプトの信頼関係、絆の強さが終始感じられるイベントに。この機会に日エジプトの友好がより深まり、学術交流や共同研究促進につながることを期待されます。



日本・エジプト両国の言葉で「平和」と書かれたパピルスと共に

選挙にまつわる問題を 専門家と一緒に考える

2023年6月23日、特別公開講座「衆院選 in 広島」が「広島大学75+75周年記念事業」の一環として東千田キャンパスにて実施されました。法学部長の永山博之教授、湯川勇人准教授、重村壮平助教が登壇。「衆議院と解散〜いつ、なぜ衆議院は解散されるのか〜」と題して永山教授が講義し、湯川准教授、重村助教も専門領域である政治学、社会科学の観点で講

話を展開。広島テレビ長島清隆解説委員による「選挙報道の裏側」、選挙報道の特殊性や実際の選挙活動に関する講演も教授陣とは異なる

視点で目新しく、充実した講義内容となりました。

講義後のディスカッションでは、受講者からの質問や率直な意見に答える形に。内閣の衆議院解散権に対する個々の見解や選挙報道の偏向性、若年層の投票率の低さなどさまざまなテーマに対して、活発に議論が行われました。「選挙に行くべき」という説得ではなく、新しい視点から見た選挙の面白さや魅力を伝えることで投票率の向上につながれば」と永山教授。

会場の受講者の中には学生の姿も見られ、オンラインでの参加者からも多くの意見が出されました。教授陣にとっても普段の研究成果を社会に還元するだけでなく、人々が持つ関心の所在を知り、疑問に対する答えを探ることで思考が深まる貴重な機会となりました。

「衆院選 in 広島」を開催 選挙の魅力伝える特別公開講座



東千田キャンパスのSENDA LABで開催



「学び」で島を豊かにしたい。 学生がゼロから行う地域拠点づくり

教育の島・大崎上島の空き家を 学びと交流の場に リノベーション

本学工学部第四類の都市・建築計画学研究室に所属する学生が、広島県・大崎上島町の旧警察官舎を再活用し、新たな地域拠点をつくるプロジェクトに取り組んでいます。大崎上島は瀬戸内海に浮かぶ離島。行政と地域住民、そして町外の教育機関などが一体となって「教育の島づくり」を盛んに推進している、活気にあふれた地域です。

2022年度に大崎上島町の町役場から依頼があり、取り組みがスタート。まずは町の住人にヒアリングし、島の暮らしや歴

史などを学びました。そして、再活用案の検討に際して、「学び」というテーマのもとで学生がアイデアを競いました。そこで1位となった案をベースに、「地域住民や来訪者が交流し学びを生むレンタルアトリエ・フリースペース」という改修計画を策定。2023年春に着工し、月に1、2回のペースで学生自身がマネジメントしながら工事を行っています。

建物の完成予定は2024年10月ですが、最終的なゴールはさらに先にあります。それは、地域住民、移住者、本学の教職員・学生、観光客などのあらゆる人々が、学びを軸として集い、刺激が生まれる場に育てること。「島の関係人口を増やし、地域を



豊かにしていきたい。新事業や移住のきっかけになれば」と研究室を指導する角倉英明准教授は期待を寄せています。

LOCAL

GLOBAL

「広島とエジプト
—記憶を紡ぎ平和な
未来を創る2つの
オリエン트—」開催

Rahmatika Dewi さん
(ラハマティカ・デウィ)

大学院人間社会科学研究科 博士課程後期3年
(2023年9月修了)
出身国:インドネシア共和国
留学期間:5年

留学体験記

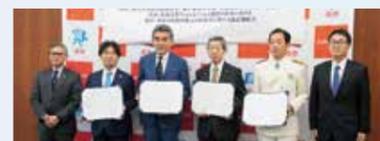
母国で直面した社会課題をグローバルな視点で分析し、世界的な問題解決に貢献したい。人格形成と価値観教育を重視する日本の教育システムに興味を持ち、留学を決意。世界各国の学生とさまざまな教育問題について討論できるプログラムや充実した奨学金制度に魅力を感じ、広島大学を留学先を選びました。大学院では、個人が高等学校や専門学校、大学などを卒業し、社会に出て就労するまでの過程でCOVID-19のような社会的危機をどのように乗り越えるのかについて研究しています。逆境に直面したとき、個人や地域社会が互いに支え合うためには何をすべきか、母国がパンデミックの際に直面した問題をグローバルな視点から分析しています。広島大学で研究を進める中で、世界的な問題解決に貢献するという広い視野が身に付き、母国での経験を世界と共有することで、自身も社会課題解決に寄与したいという思いを強く抱くなど、人間的にも学問的にも大きく成長できたと感じています。将来的にはこの研究を発展させ、学術界だけでなく広く一般社会にポジティブな影響を与えられる研究者になりたいです。



Analyzing my home country's challenges for global solutions

I chose to study in Japan because of my interest in the Japanese educational system, which emphasizes character development and values education. My destination of choice was Hiroshima University due to its appealing program that fosters discussions on various educational issues with international students and its extensive scholarship opportunities. In graduate school, my research focuses on how individuals navigate the challenges they encounter when transitioning from high school, vocational school, or university to the workforce, particularly during crises such as COVID-19. I analyze the pandemic's impact in my home country from a global perspective and explore ways for individuals and communities to support each other during adversity. My time at Hiroshima University has enriched both my personal and academic growth. It has expanded my perspective and instilled a strong sense of responsibility to contribute to global problem-solving and share the insights I've gained from my experiences in my home country with the world. In the future, I aim to further develop my research to become a researcher who makes a positive impact on both the academic community and society at large.

呉市におけるTown & Gown構想の新たな展開。海洋・海事に関する国際拠点を目指して



2023年7月8日の締結式にて。左から世界海事大学メヒア学長、笹川平和財団角南理事長、越智広島大学長、新原呉市長、江口海上保安大学校長、広島大学金子理事・副学長

本学・呉市・海上保安大学校・笹川平和財団が取り組みを推進。本学と自治体が日常的、組織的な関係で連携し、持続可能なまちづくりに取り組むTown & Gown構想が、東広島市に続き呉市で始動しました。テーマは「アジアにおける新たな海洋・海事の拠点づくり」。海洋・海事をテーマに多様な主体を巻き込んだ活動を行うことで、国内外から最先端の人材・企業・研究機関などを呼び込み、地域社会の発展と大学の進化を目指します。

構想の推進のため、海上保安大学校と、海洋・海事に関するネットワークを世界中に持つ公益財団法人笹川平和財団を加え、4者で協定を締結。さらに国

連の国際海事機関が設立した世界海事大学とも連携し、国際的な事業展開も進めます。

具体的には、教育プログラムの新設による高度人材の育成、多様な研究、啓発活動やスタートアップ支援などを行う拠点づくりに取り組みます。研究においては、本学の知見を生かし、海洋環境や海洋資源、自動運航船など海洋・海事DX・GXの先進的な研究開発などに取り組みます。

目標は、海洋・海事における世界レベルの教育・研究拠点を創出すること。最終的には高度人材と関連企業の集積によりイノベーションが加速する、豊かな地域社会の実現に向けて活動を進めていきます。

第1回Town & Gown Office (TGO) フォトコンテスト開催!

その他の入賞作品は TGO WEBサイトから!



広島大学のキャンパスと東広島のまちをテーマに力作が揃う

東広島市と広島大学が一体となって進めるTown & Gown構想を推進・運営する組織、TGOが「第1回TGOフォトコンテスト」を開催。地域住民へのTGOの認知

特別賞



向上を目的に、2023年6月1日から7月31日の間、「東広島キャンパス」と「キャンパスのあるまち東広島」の魅力が伝わる写真を募集しました。学生や職員などの関係者に加え、市民からも多くの作品が寄せられ、いずれも力作揃い。「Town & Gown特別賞」には「キャンパスの魅力部門」の作品より幼い子どもと大学のシンボル「フェニックスタワー」が印象的な作品が選ばれました。他にも、ストーリー性が感じられる3作品が「キャンパスの魅力賞」に入賞。「まちの魅力

まちの魅力賞



観光の魅力賞



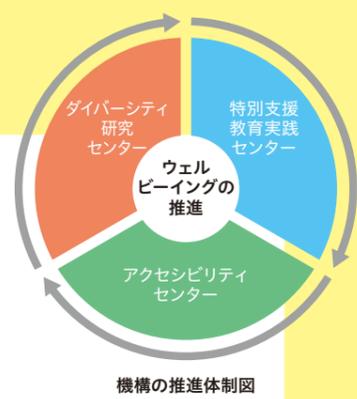
賞」には、学生が飛ばす気球が冬の風物詩になっている風景を写した作品や、東広島市の日常を切り取った心温まる作品などが入賞しました。「観光の魅力賞」は、特産品を手にした地元の方の歓迎ムードが伝わってくる作品ほか2作品が入賞。

個性豊かな入賞作はいずれも風景の美しさだけでなく、その場所に生きる人々の思いを感じさせ、心に響く作品が選ばれました。今後もさまざまな広報活動を通じて、TGOの取り組みの発信を続けます。

こちら ダイバーシティ & インクルージョン 推進機構!

welcome to our workplace

広島大学を日々支えるオフィスやセンター。その業務の内容に迫ります。



鈴木機構長が質問にお答えします。
鈴木 由美子
機構長/理事・副学長(教育・平和担当)

Q1 ダイバーシティ&インクルージョン推進機構の役割を教えてください。

A. 広島大学では、学内および周辺地域におけるダイバーシティ&インクルージョン(D&I)を推進し、誰もが充実感・幸福感を持って活躍できる持続可能な社会の構築に貢献するため、2023年4月にD&I推進

機構を設置しました。ダイバーシティ研究センター、特別支援教育実践センター、アクセシビリティセンターの連携により、世界をリードするD&I教育研究拠点を目指します。

Q2 活動内容を教えてください。

A. 教員免許状の取得を目指す学生をはじめ、全ての学生にD&I教育・実践環境を提供し、デジタル化や先進技術による初等・中等・高等教育・社会の連続したアクセシビリティの実現に向けて取り組んでいます。また、多様なニーズのある学生へのアクセシビリティとインクルージョンの理念に基づく支援も行っています。

Q3 今後の展望を教えてください。

A. 今年度10月からは特別支援教育実践センターにチェンバース教授も加わりメンバーを強化。世界をリードするD&I教育研究拠点を目指すと共に、インクルーシブマインドを持つ人材を育成・輩出し、多様で連続的なアクセシビリティを実現することにより、誰もが充実感・幸福感を持って活躍できる持続可能な社会、ウェルビーイングを実現します。



インクルーシブマインドを持つ人材の育成・輩出と、世界をリードするダイバーシティ&インクルージョン教育研究拠点となることを目指す。

左より 山本アクセシビリティセンター長、石田副機構長、鈴木機構長、チェンバース教授(特別支援教育実践センター)、川合特別支援教育実践センター長、大池ダイバーシティ研究センター長

センター長からのメッセージ

ダイバーシティ研究センター
D&Iの関心を共有する多くの人と、領域や立場を超えて連携し、文理融合の研究や地域協働の事業を展開します。
大池 真知子
センター長 / 教授

特別支援教育実践センター
国内のみならず国外でもインクルーシブ教育システムの推進を図るため、国外機関と連携し、共同研究や教員研修などを推進します。
川合 紀宗
センター長 / 教授

アクセシビリティセンター
「可能性を開拓するアクセシビリティ」をテーマに、D&Iが生きる教育・支援・研究・連携事業を推進します。
山本 幹雄
センター長 / 准教授

HIRO-D&I HEROES

キャンパスで、地域で、チャレンジする広大生を紹介

HERO 27 日本 睦実 さん
(ひのもと むつみ)
工学部第四類 4年

学生ボランティアとしてG7サミット開催に携わる

わずかでもその一端を担ってみたいの思いから、学生ボランティアに参加し、学生代表の大役を任せられました。活動内容は、サミット前の広島東洋カープ公式戦などの県内イベントでの宣伝、期間中に県内に設置したインフォメーションや、空港・駅での案内などがありました。これらの活動の中で私が力を入れたことは、気軽に仲間を頼れる環境作りです。良い空気が作れた結果、積極的にアドバイスや相談ができるようになり、全員で無事G7のボランティアという大仕事を完遂できました。また、各国首脳配偶者の方々による昼食会では、希望者のうち12人が配膳する機会もありました。マナーの習得にとっても苦労しましたが、何とかやり遂げた時、出席者の方々から「楽しかった」「ありがとう」と声を掛けてもらったことがとてもうれしかったです。



各国代表配偶者による昼食会の配膳の事前練習
県民会議主催 G7ユースイベントでの案内

お気に入り講義：
平和への記憶学(平和科目)

広島大学ならではの平和科目。記憶学の視点から戦争がどのように記憶され、伝承されていくのかを学びます。



HERO 28 小島 萌星 さん
(こじまももせ)
教育学部第一類 4年

チーム丸となって大技にも挑戦!「熱い応援」を

頑張る人を応援する側に挑戦したい。以前からそんな思いがあり、応援団に入部しました。チアに加え、憧れのあった学ラン着用のリーダー団員を兼任し、その後、団長を任せられ今に至ります。パフォーマンスを通して一人一人が存分に輝ける演技構成になるよう意識しています。率直に意見を交わし話し合いを重ねながらスタント(アクロバティックな技)では新たな大技にも挑み、部全体のレベルアップを図ってきました。コロナ禍では、観客席をいかに盛り上げ熱い応援を届けるか、チーム丸となって試行錯誤したのも良い経験です。これからも応援団での経験を生かし、新しいことにも果敢に取り組んでいきます。小さい頃からの夢である小学校教員になり、子どもの頑張りを応援できるよう、「まずはやってみる」という気持ちで挑戦します。



野球部の試合の応援に駆け付けました
大学祭でのステージ

お気に入り講義：
保育内容論

言語、健康などのさまざまな講義があり、中でも実際に保育の現場を観察するような貴重な経験もできたことが、幼児教育に興味を持つきっかけになりました。



卒業生インタビュー / 私も

大です

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されている卒業生の方々に、現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。



医学部総合薬学科[※]出身
杜野 亜希 さん
漫画家

もりの・あき / 広島県出身。1987年、広島大学医学部総合薬学科在学中に『ニセアカシアの魔法使い』で漫画家デビュー。その後1989年に同大学を卒業。『神林&キリカンシリーズ』『屍活師 女王の法医学』など代表作多数。



生物生産学部 出身
窪田 保 さん

一般社団法人
グローバルけん玉
ネットワーク (GLOKEN)
代表理事

くぼた・たもつ / 奈良県出身。2003年全国学生けん玉選手権個人の部優勝、もしかめ連続時間の世界記録を樹立。2004年広島大学生物生産学部を卒業後、青年海外協力隊や通信制高等学校の教員を経て、2012年に一般社団法人グローバルけん玉ネットワークを設立。

好奇心の赴くまま。 「好き」を詰め込んだ学生時代

私の漫画家としての人生は、広島大学の在学中に始まりました。学部1年生の時に大手出版社の短編の賞、3年生の時に長編の賞を受賞した後、デビュー。ちょうど学部の専門科目が本格化する時期で、漫画のネームと学業に追われる毎日を過ごしましたね。

その一方で、学生生活も満喫していました。テニス部で汗を流したり、アルバイトで家庭教師をしたり、ジャズダンスを習ったり……。興味のあることにはなんでも挑戦したのですが、中でも印象に残っているのが広島大学のイラストマンガ同好会です。同好会で、私は部員の画力向上のための「お絵かき会」の担当を

一年間務めていました。本来は文章でお題を告知するだけの役目だったのですが、思いのほか筆がのってしまい、漫画形式で連載していたのは良い思い出です。同好会には、とだ勝之先生やこうの史代先生など、後の著名な漫画家の方も在籍されており、卒業後も自身の作品作りにとても良い刺激になっています。

広島大学の知を最大限に 生かした代表作『屍活師』

私の代表作『屍活師 女王の法医学』は、広島大学に大きな影響を受けた作品の一つです。法医学がテーマなのですが、作品の構成づくりには、学部時代に学んだ医療分野の基礎が役立ちました。また、細かい医療考証は、広島大学医学部出身で、漫画研究会のかつての先輩を

もある先生にご協力いただきました。医療に関する専門知識はもちろん、漫画制作への理解も持ちちなので、作品としての面白さとリアリティを高い水準で両立させることができました。実写ドラマにもなり、多くの人に楽しんでいただいています。現在は連載を少しお休みし、新作を構想中。これからも人々を引き付ける作品を作り続けたいと思います。

心に響いた人生の名言

あなたが将来どのような道へ進もうとも、積み上げた努力は無駄にならない。幼少期に習っていたバレエの先生からいただいたこのメッセージは、今でも人生の選択に迷った時の指針になっています。

けん玉の魅力をもっと世界中に広めたい

何度も練習を重ね、難しい大技が決まった時の達成感やうれしさ。それは、大学入学後けがによって運動部を引退した私の心の空白を埋めてくれました。けん玉にのめりこむようになるにつれ、“地味で暗い”“ダサイ”遊びだと周りから思われていることがとても悔しく、もっと魅力を広めるためにけん玉サークル「DAMAけん」を結成。小学校や児童館などを訪れ、子どもたちに教えるイベントを年に100~200回ほど行ったり、普及のためにモンゴルを何回も訪れたり、忙しい毎日を送っていました。活動を通じて、人と人をつなぐけん玉の力を実感すると同時に、

子どもたちを喜ばせて場を盛り上げる責任感を養うなど、学校の中だけでは学べない貴重な経験が成長につながったと感じます。

けん玉界を盛り上げ、「楽しい」があふれる社会に

大学卒業後もけん玉の普及に取り組む中で、SNSなどを通じて世界中に広まりつつあることを感じていました。そこで、世界のプレーヤー同士が交流できるプラットフォームをつくりたいと思い、GLOKENを設立。発祥の地である広島県廿日市市で、2014年から毎年「けん玉ワールドカップ」を開催しています。一方で、初心者にも「できた!」という喜びを味わってほしいという思いから「けん玉検定」をつくり、検定員で

ある「けん玉先生」の資格発行なども行っています。

最終的な目標は、日常に「楽しい!」があふれる社会づくり。子どもたちに豊かな社会を残せるよう、これからはさまざまな方法でけん玉コミュニティを盛り上げていきます。

心に響いた人生の名言

日本一周をしていた時、ある方に「お礼を手紙で伝える」ことをアドバイスしていただきました。今でも寄附してくださるサポーターの方に、直筆でお礼の手紙を書くように心がけています。

人生を変えた?! 広大生が選ぶ My Best Thing!

HU-style vol.23

漫画や音楽など、広大生のお気に入りの徹底調査！現役大学生は、いったい何にハマっているのでしょうか？

……私たちが取材します！……

学生広報ディレクター



法学部 2年
はやし れい
林 玲衣さん



総合科学部総合科学科 1年
ふじさわ のあ
藤澤 乃彩さん



総合科学部総合科学科 2年
いしがい みう
石貝 美羽さん

大学院統合生命科学研究科
博士課程後期 1年
まつだ なぎささん
松田 凪紗さん



私の Best Thing は

『ビューティフル』(毛皮のマリーズ)

→ 生き方に悩む私の道しるべ

人生や生き方について考え直していた学部3年生の時に、偶然友達からおすすめされた曲です。歌詞が印象的で、「自分の哲学や美学を大事にしたい」という気持ちを肯定してくれたように感じました。

→ 自分の思いに正直に生きたい

私にとって“ビューティフルに生きる”とは、「自分の心に正直にありのまま生きること」だと考えています。さまざまなことに一喜一憂できる心の動きを大切に、自分に嘘はつかず生きていきたいです。

My Best Thing!

なるほど!



法学部 2年
かみやま きょうか
神谷 京花さん



私の Best Thing は

『ジョジョの奇妙な冒険』(荒木飛呂彦、集英社)

→ 家族みんながジョジョラー!

もともと父親が作品の大ファンで、読んでみるよう勧められたことがハマったきっかけです。今では家族全員が大好きで、企画展示を見るために旅行に出かけることも。家族の仲を深めてくれる大切な作品です。

→ 片時も離れたくなくて……

目に入ったタイミングで必ず読み返しており、大学受験の際は勉強の息抜きとして楽しんでいました。帰省の度に持って帰っていましたが、重くて大変なので実家に置いておく分も新しく買ってしまいました。

My Best Thing!

大好きなジョジョ!



愛が伝わりました



Comic



©荒木飛呂彦/集英社

私の Best Thing は

『LOSER』『ピースサイン』(米津玄師)

→ 再出発を後押ししてくれた!

以前所属していた大学で挫折しつらかった時期に出会いました。特に『LOSER』はもう一度広島大学を受験し直すという自分の境遇と重なり、再出発を後押ししてくれた思い入れのある曲です。

→ 自分も人を助けられるヒーローに

コロナ禍を通して、複合的な視点がないと人を助けられないと実感。無力な自分が成長して、誰かを守れるようになりたいという『ピースサイン』のフレーズに共感し、ジェンダーや環境などを幅広く学べる総合科学部へ入学を決めました。

My Best Thing!



そんなことが

総合科学部
総合科学科 3年
かわな けん
川鍋 健人さん



HU TOPICS

2023.6
|
2024.1

大学の動き

吉永小百合さんによる朗読会 「一非戦・非核を願って」を開催

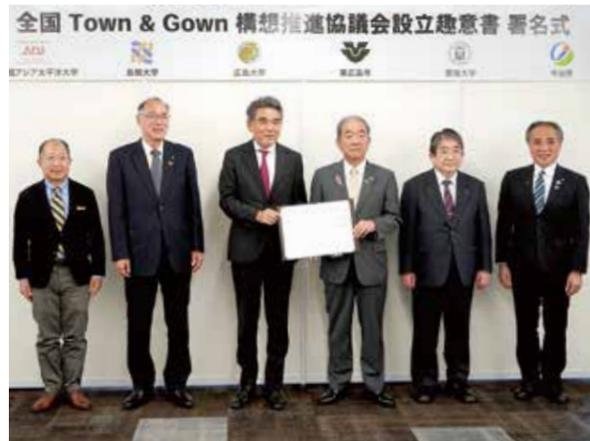
2024年に迎える創立75+75周年を記念して、35年以上にわたり原爆詩を朗読して、平和の尊さを伝えてこられた俳優の吉永小百合さんと、NHK交響楽団をはじめ国内外の有数のオーケストラと共演されているギタリストの村治奏一さんをお招きし、11月23日に「吉永小百合朗読会-非戦・非核を願って-」をサタケメモリアルホールで開催しました。500人を超える学生や教職員が参加し、吉永さんの朗読とギターの色に耳を傾けました。本学は「平和を希求する精神」を理念のひとつに掲げており、平和について考える大変貴重な機会となりました。



全国Town & Gown構想 推進協議会を設立

10月28日、広島大学と東広島市は、これまで取り組んできた地方大学が地方創生に貢献するための連携モデル「Town & Gown構想」をさらに洗練させて、日本全国に広めることを目的として、呉市、愛媛大学、今治市、島根大学、出雲市、立命館アジア太平洋大学、一般社団法人スマートシティ・インスティテュートと共に、全国Town & Gown構想推進協議会の設立趣意書署名式を執り行い、第1回総会を開催しました。今後、さらに会員を増やし、新たな産学官連携の形を模索していくことを目指します。

※「Town & Gown構想」とは、大学と大学が立地する地域の自治体が、行政資源と教育・研究資源を融合しながら活用することで、地域課題の解決や持続的な地域の発展と大学の進化を共に目指す構想です。



総合科学部

研究室見学ツアー 「Open Lab.」を開催

8月17日、研究室訪問を行うイベント「Open Lab.」を開催しました。約70人の高校生や中学生に対し、質問コーナーも交えながら理系研究について紹介しました。



文学部

「文学部で味わう 世界のティータイム」を実施

11月4日のホームカミングデーにおいて、文学部、文学研究科、人文学プログラムで学ぶ留学生が講師になり、自国の文化や自身の研究内容を語る「世界のティータイム」を実施しました。また、講演後には留学生が点てたお茶を振る舞い、参加者と自由な雰囲気でお話しました。



全12学部・5大学院から
注目トピックをピックアップ。
広島大学の最新情報を紹介します。

学部情報 / 大学院情報

法学部

法学部特別公開講座 「政治倫理と法」を開催しました

11月2日に、法学部特別公開講座「政治倫理と法 今後の法治のあり方を考える」を開催しました。吉中信心教授の企画で、広島弁護士会の井上明彦氏、テレビ新広島の福田康浩氏、湯川勇人准教授、堀田尚徳准教授が講義を行い、会場・オンラインでの参加者から多くの質問や意見がありました。



経済学部

紹介動画(卒業生インタビュー)を 追加しました

経済学部ウェブサイトの学部紹介ページに、卒業生インタビュー動画「卒業生に聞いてみた!!」を追加しました。ぜひご覧ください。



理学部

理学部紹介ポスターが 新しくなりました

理学部と理学系の大学院学位プログラムおよび附属教育研究施設・関連教育研究施設の紹介ポスターがリニューアルされ、マイクロノバージョンホール(E102)横の通路に掲示されました。このポスターを通じて、知識の共有と交流が促進されることを期待しています。



歯学部・薬学部

アイルラング大学生 37人の短期受入

共同社会開発教育の一環でインドネシアのアイルラング大学の歯学部生20人、薬学部生17人が霞キャンパスに10日間滞在しました。受入学生らは、研修プログラムに参加し、多様なコミュニティーを対象とした体験や交流に取り組みました。



工学部

広島大学工学部の ロゴマークについて

工学部では、学生・職員・同窓生・その他学部の関係者との連帯感を培うと共に、学部の魅力・情報発信力の向上を目的として、ロゴマークを制定しました。これから学内外に向けて幅広く活用する予定です。



情報科学部

サマーキャンプを 実施しました

8月と9月の2回にわたり、数学とプログラミングの講義の一部を体験するサマーキャンプを実施しました。沖縄県や群馬県など遠方からも参加があり、2日程で合わせて108人が受講しました。



人間社会科学部

地域連携パネル展示を 開催しました

広島大学創立75+75周年記念事業の一環として、地域連携の取り組みや社会課題・地域課題の解決を目指す研究成果のパネル展示を行いました。計23枚のパネルが、10月2日～6日は東広島市役所1階ロビーに、10月中旬以降は東広島キャンパス福山通運丸賑わいパビリオンで展示され、多数の方々にご覧いただきました。

先進理工系科学研究科

片山春菜助教が 「アジアの科学者100人」に選出

シンガポールの科学誌Asian Scientist Magazineが発表した2023年度版「アジアの科学者100人」に本研究科の片山春菜助教(総合科学部卒業)が選出されました。片山助教は、電気回路に作った擬似的なブラックホールから放出される特異な量子相関を持った「ホーキング輻射」を観測する方法を提案しています。

統合生命科学研究科・生物生産学部

第15回国際サマースクールを 開催しました

アジア・アフリカ地域の4カ国から14人が参加しました。参加者の専門分野に応じたプログラムワークを実施したほか、平和記念資料館、原爆ドーム、宮島も訪問しました。



医系科学研究科・医学部

防災功労者内閣総理大臣表彰を 受賞しました

大学院医系科学研究科(医学部)の久保達彦教授が、令和5年防災功労者内閣総理大臣表彰を受賞しました。表彰式は、9月15日に総理大臣官邸で開催され、岸田文雄内閣総理大臣から表彰状を授与されました。



スマートソサイエティ実践科学研究所

SmaSo-X Challenge事業 Young Researchers研究助成を決定

本研究所では超学際実践研究(クロスオーバー研究)を推進しています。クロスオーバー研究に従事する若手教員を対象に研究助成の公募を行い、4人の参画教員に研究助成金を贈呈しました。引き続き、研究分野の垣根を超えた教員や学生の学際研究活動を支援していきます。



“広大キャンパスの「イマ」をお届け”
キャンパスNOW



大学・高専機能強化支援事業

「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援(ハイレベル枠)」に
全国で7大学、中国四国地区で唯一選定されました!

Q1

どんな事業?

大学または高等専門学校を対象に、助成金を交付することで、全国各地におけるデジタル・グリーン[※]等の成長分野の学部設置等を促進させる助成事業です。本学は、デジタル分野に関わる大学院段階の定員増等による体制強化を原則とする「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化支援」に採択されました。

※ デジタル・グリーン…設備利用の効率化や二酸化炭素の削減等を目的として、デジタル技術を活用した取り組みのこと。

Q2

広大はどう変わる?

大学院先進理工系科学研究科の情報系定員を増員し、中国四国地区最大規模の情報系大学院課程を構築します。また、情報科学部の定員を増員するほか工学部第二類に半導体システムプログラムを新設します。

先進理工系科学研究科(情報系)	情報科学部	工学部第二類 半導体システムプログラム
令和11年度 博士課程前期 36人 > 225人 (189人増)	令和7年度 1年次 150人 > 180人 (30人増)	令和7年度 1年次 55人
令和13年度 博士課程後期 10人 > 30人 (20人増)	令和7年度 3年次編入 5人 > 20人 (15人増)	令和9年度 3年次編入 10人

※本計画については文部科学省の手続きを経て確定します。

Q3

助成額はどれくらい?

一般枠の助成金額(最大10億円)に一定額(最大10億円)が加算して交付されます。本学はハイレベル枠採択大学の中で最大の支援額である19億4千万円の支援を受けます。

Q4

他の選定大学は?

北海道大学、筑波大学、滋賀大学、神戸大学、九州大学、熊本大学が選定されました。本学は中国四国地区で唯一の選定大学です。

Q5

今後のビジョンは?

「世界の有力大学との連携」「地域の大学・高専等への情報教育の横展開」「企業と連携した、地域や我が国の産業振興」の取り組みを展開し、地域や世界とのさらなるネットワーク強化を図ります。

創立75+75周年特集連載!

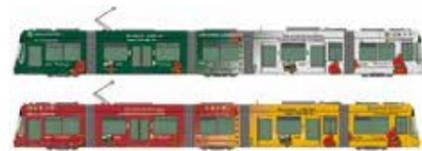
第2弾 広島大学オリジナルデザインの電車とバスが走ります!

2024年に広島大学創立150年の節目の年を迎えるにあたり、周年事業の一環として本学オリジナルデザインでラッピングされた路面電車とバスが広島市内を走ります。デザインは学生と教職員から公募。11件の応募の中から、理学部の学生と職員の提案をベースに決定しました。

運行期間は2024年1月中旬から12月末日までの予定で、路面電車は主に広島駅から紙屋町東・本通を経由し広島港までを結ぶ広島電鉄1号線を走ります。



▶電車のデザイン



▶バスのデザイン



Reader's View

HU photos

Instagramで#広島大学の付いた投稿からお届けします。



2023.11.02

#広島大学 #広島大学紅葉祭り #広島大学東広島キャンパス

投稿者:kayotatさん

HU ism

広島大学にまつわる、読者から届いたちょっといい話をご紹介します。

上の子どもが平成27年に入学してから、下の子どもが在籍している現在まで、広島大学にお世話になっています。毎年、大学祭にもお邪魔しています。ちょうどその頃、生物生産学部と国際協力研究科の棟の間にたくさんの大きな広葉樹「モミジバフウ」(紅葉葉楓)があり、真っ赤に紅葉していて見事です。素敵な景色です。今年も紅葉のカーテンを見にお邪魔します。

ペンネーム:shokoさん(島根県出雲市・59歳)

HU photos

広島大学にまつわる写真を#広島大学を付けてInstagramに投稿してください。テーマは何でもOK! 素敵な写真をお待ちしています。

HU ism

広島大学にまつわる逸話やエピソードを募集します。あの頃の懐かしい思い出話や誰かに言いたくなる広島大学の秘密を教えてください。

投稿
募集中!

投稿はこちら



投稿が掲載された方には

**広大マスコット
キャラクター
「ひろティー」
トートバッグをプレゼント!**

※デザインは選ばせません。



WEBアンケートにご協力ください

読者の皆さまからのご意見、ご要望、情報提供をお待ちしております。
 いただいたアンケート内容は、今後の誌面づくりに活用させていただきます。



WEBアンケートはこちら

HU-plus 検索

読者プレゼント

アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で合計14名様にプレゼント!!

※応募締切:2024年3月31日必着 厳正な抽選の上、商品の発送をもって当選の発表にかえさせていただきます。

A 杜野 亜希氏

『H/P ホスピタルポリスの勤務日誌』
 全5巻1セット(直筆サイン入り)



1名様

B 杜野 亜希氏

『H/P ホスピタルポリスの勤務日誌』
 第1話のお試し読み用小冊子1冊(直筆サイン入り)



3名様

C 月刊『東京人』

2023年9月増刊 特集「広島大学」1冊



10名様

食べたいものを
MAZE! MAZE!
 するだけ!

あっ!
**おいしい
 カンタン!**

OTAFUKU オタフクソース

糖類を控えた
 優しい甘さの
 もみじ饅頭です

広島大学産学連携商品
 ◎広島銘菓 **もみじ饅頭Light**
 糖類50%オフ もみじ饅頭Light(ライト)は、
 たくさんの方に美味しく食べていただきたい、
 という思いから生まれました。

糖類50%off
 ※当社「もみじ饅頭」と比較(1個当たり) フライデー限定
 広島大学産学連携商品
 糖類削減・生活習慣病予防医学
 6個入/10個入

にしき堂 〒732-0052 広島市東区光町1丁目13番23号
 フリーダイヤル 0120-979-161

広島銘菓
 せとこもち

広島大学・尾道市と
 弊社にしき堂が
 共同開発した
 広島銘菓「せとこもち」を
 ご賞味ください。

本店/広島市東区光町1丁目13-23 ☎(082)262-3131(代)
 https://www.nishikido.co.jp Eメール:info@nishikido.net
 TEL ☎0120-979-161(8:00-18:00) FAX ☎0120-963-161

広島大学への寄附にご協力いただき、深く感謝申し上げます。

広島大学基金 ※広島大学が躍動し広島のを活性化させる基金 (広島大学75+75周年に向けて)・応急学生支援金を含む

高額のご寄附をいただいた方 (2023年9月まで)

●個人 10億円以上 法人 20億円以上	●個人 500万円以上 法人 1000万円以上	●個人 100万円以上 法人 100万円以上	●個人 5000万円以上 法人 1億円以上	●個人 1000万円以上 法人 2000万円以上	
佐竹 利子 様 「特別荣誉学賞」	医療法人たんぼぼ会 理事長 大嶋 俊一 様 「名誉校友」 医療法人社団仁慈会 理事長 安田 克樹 様 「名誉校友」「冠寄附者」 オタフクソース株式会社 取締役会長 佐々木 直義 様 「名誉校友」「冠寄附者」 株式会社バルコム 代表取締役 山坂 哲郎 様 「名誉校友」「冠寄附者」 株式会社築地 代表取締役 平尾 眞恰美 様 「学賞」 財団法人渋谷育英会 理事長 小丸 法之 様 「学賞」 池田 英明 様 「学賞」 矢野 博文 様 「学賞」	医療法人社団みくめぐみ会 サンクティック 理事長 中村 雄二 様 医療法人おち眼科医院 理事長 越智 温子 様 「冠寄附者」 医療法人社団楓会 林病院 理事長 林 淳二 様 「冠寄附者」 医療法人恒和会 松石病院 理事長 松石 頼明 様 株式会社社紀陽 代表取締役社長 寒川 起佳 様 「冠寄附者」 医療法人社団玄同会 理事長 小島 敬太郎 様 「名誉校友」 医療法人せのがわ 理事長 津久江 一郎 様 「名誉校友」 株式会社ダイクレ 代表取締役社長 山本 浩 様 「冠寄附者」 公益社団法人内外いへい会 代表理事 高橋 喜人 様 戸田工業株式会社 取締役社長 實来 茂 様 「冠寄附者」 医療法人社団清流会 理事長 永井 賢一 様 「冠寄附者」 医療法人社団伯瑛会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 「冠寄附者」 医療法人辰川会 理事長 辰川 自光 様 「冠寄附者」 医療法人社団慈恵会 いまだ病院 院長 大杉 健 様 「冠寄附者」 株式会社にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 「冠寄附者」 医療法人社団知仁会 理事長 石井 知行 様 医療法人社団 井野口病院 会長 井野口 千秋 様 株式会社日本クライ メイトシステムズ 様 「冠寄附者」 医療法人 小田内科クリニック 理事長 小田 弘明 様 医療法人社団 梶山小児科 理事長 梶山 泰正 様 医療法人社団陽正会 寺岡記念病院 理事長 寺岡 暉 様 医療法人微風会 ピハハラ花の里病院 会長 和泉 一子 様 株式会社シンコー 代表取締役社長 筒井 幹治 様	田中電機工業株式会社 代表取締役 田中 秀和 様 広島大学歯学部同窓会 様 医療法人昭和田整形外科病院 理事長 原田 昭 様 「冠寄附者」 医療法人社団スマイル 博愛クリニック 理事長 高杉 啓一郎 様 「冠寄附者」 医療法人社団マッキー 理事長 松木 啓 様 「冠寄附者」 医療法人S.R.C. 中光整形外科リハビリクリニック 院長 中光 清志 様 「冠寄附者」 医療法人K&Clover 理事長 片木 晴彦 様 「冠寄附者」 石原 隆雄 様 上 真一 様 浅野 宏國 様 医療法人社団慈恵会 土肥整形外科病院 様 株式会社内藤建築事務所 代表取締役 川本 雄三 様 関 和子 様 RF技研工業株式会社 代表取締役 玉村 俊雄 様 相田 美砂子 様 アカシア会 (広島大学附属 高校同窓会) 様 秋野 成人 様 井川 幹夫 様 石井 知行 様 石崎 信三 様 医療法人あすか 理事長 高橋 勲 様 医療法人社団柄歯科 医院 柄 俊彦 様 医療法人社団中川会 呉中通病院 院長 中川 豪 様 医療法人社団長寿会 はたのリハビリ整形外科 理事長 畑野 栄治 様 木村 栄一 様 西田 修実 様 岩原 恭代 様 竹中 利彦 様 谷村 秀樹 様 広島大学総合科学部 同窓会 様 中村 英雄 様 池永 孝 様 安永 裕司 様 東儀 宣哲 様 茶山 一彰 様 利島 保 様 真鍋 英喜 様 相原 玲二 様 宇佐 弘 様 野上 智行 様 渡邊 篤 様 株式会社熊平製作所 様 山本 陽介 様	株式会社中国放送 代表取締役社長 宮迫 良己 様 株式会社ユニサス 代表取締役会長 松村 公市 様 神谷 研二 様 河原 能久 様 北村 拓也 様 許 泰一 様 協同出版株式会社 代表取締役 小貫 輝雄 様 楠 雄治 様 小池 透 様 公益財団法人浦上奨学会 理事長 浦上 浩 様 高祖 讓 様 佐藤 裕子 様 重山 俊彦 様 社会医療法人清風会 理事長 梶原 四郎 様 新谷 貫之 様 末廣 眞一 様 鈴木 孝尚 様 住田 忠幸 様 高田 隆 様 田妻 進 様 田中 知満 様 寺本 康俊 様 天道 俊孝 様 土肥 博雄 様 永井 敏隆 様 永井 眞由美 様 長谷川 泰二 様 平田 敏夫 様 広島アルミニウム 工業株式会社 代表取締役社長 田島 文治 様 広島県厚生農業 協同組合連合会 理事 尾道総合病院 様 広島大学広楓会 様 福田 和恵 様 福田 幸雄 様 藤村 欣吾 様 堀 司郎 様 増井 孝子 様 松村 誠 様 道中 美敏 様 三村 邦雄 様 村上 恒二 様 望月 可奈子 様 八幡浜市役所 様 山根 恒弘 様 ヤマネホールディングス株式会社 代表取締役社長 山根 誠一郎 様 有限会社メゾン宇恵多 代表取締役 上田 邦恵 様 横崎 恭之 様	猫本 宏司 様 「名誉校友」 星山 政昭 様 「名誉校友」 医療法人社団柄歯科 医院 柄 俊彦 様 大杉 節 様 河野 修興 様 「名誉校友」 永井 眞由美 様 早川 武敏 様

2023年6月から2023年9月までにご寄附をいただいた方

●100万円以上	●1000円以上100万円未満
岸 憲之介 様 皆本 仁美 様 三春 範夫 様 山中 亮一 様 脇 由美子 様 広島大学・千田塾 山口支部宇部地区 交流会での寄付者 (周年記念樽基金) 様 大木 洋 様 木田 徳司 様 河野 幹章 様 坂詰 貴司 様 池田 雅夫 様 広島大学保健学 同窓会院蔵会 会長 高橋 真 様 宮崎 成樹 様 「名誉校友」 株式会社 プムラ電工 代表取締役社長 中原 英雄 様 丸山 博文 様 吾郷 誠二 様 安保 由美 様 大野 和子 様 梶川 博 様 金本 繁子 様	古橋 進哉 様 皆本 仁美 様 三春 範夫 様 山中 亮一 様 脇 由美子 様 広島大学・千田塾 山口支部宇部地区 交流会での寄付者 (周年記念樽基金) 様 大木 洋 様 木田 徳司 様 河野 幹章 様 坂詰 貴司 様 池田 雅夫 様 広島大学保健学 同窓会院蔵会 会長 高橋 真 様 宮崎 成樹 様 「名誉校友」 株式会社 プムラ電工 代表取締役社長 中原 英雄 様 丸山 博文 様 吾郷 誠二 様 安保 由美 様 大野 和子 様 梶川 博 様 金本 繁子 様

冠事業基金

(2023年9月現在)

2015年度から新たに、寄附をいただいた方のご芳名などを冠して、寄附者様のご厚意が見える形にした「広島大学冠事業基金」を創設しました。寄附方法は、一口5万円の毎月の継続寄附で、当面は外国人留学生への奨学金と日本人学生への海外留学資金に活用します。

医療法人社団慈恵会 いまだ病院 院長 大杉 健 様 (2015.11～/475万円) 株式会社にしき堂 代表取締役社長 大谷 博国 様 (2016.4～/450万円) 弁護士 緒方 俊平 様 (2019.8～/250万円) 医療法人おち眼科医院 理事長 越智 温子 様 (2015.8～/970万円) 越智 光夫 様 「名誉校友」 (2016.2～/460万円)	医療法人KOC 金谷整形外科クリニック 理事長 金谷 篤 様 (2016.2～/460万円) 医療法人社団伯瑛会 のぞみ整形外科 理事長 金田 瑛司 様 (2021.3～/非公開) 医療法人K&Clover 理事長 小林 健二 様 (2020.5～/205万円) 坂下 勝 様 (2017.2～/350万円)	オタフクソース株式会社 取締役会長 佐々木 直義 様 「名誉校友」 (2016.1～/非公開) 医療法人エム・エム会 理事長 白川 泰山 様 (2016.8～/430万円) 株式会社社紀陽 代表取締役社長 寒川 起佳 様 (2016.9～/非公開) 医療法人社団スマイル 博愛クリニック 理事長 高杉 啓一郎 様 (2015.12～/非公開)	戸田工業株式会社 取締役社長 實来 茂 様 (2017.12～/710万円) 田中 純子 様 (2020.6～/200万円) 株式会社総合広告社 代表取締役副会長 坪井 高義 様 (2016.3～/450万円) 医療法人社団清流会 理事長 永井 賢一 様 (2016.1～/460万円)	医療法人S.R.C. 中光整形外科 リハビリクリニック 院長 中光 清志 様 (2016.12～/465万円) 株式会社やまだ屋 代表取締役 中村 靖富満 様 (2017.1～/非公開) 医療法人社団楓会 林病院 理事長 林 淳二 様 (2016.3～/455万円)	医療法人昭和田 整形外科病院 理事長 原田 昭 様 (2015.10～/475万円) 平尾 泰保 様 「名誉校友」 (2021.10～/240万円) 医療法人社団まりも会 ヒロシマ平松病院 理事長 平松 廣夫 様 「名誉校友」 (2016.1～/930万円) 株式会社日本クライ メイトシステムズ 様 (2019.6～/520万円)	医療法人社団マッキー 理事長 松木 啓 様 (2016.1～/460万円) 医療法人社団仁慈会 理事長 安田 克樹 様 「名誉校友」 (2015.12～/470万円) 医療法人明英会 理事長 安本 正徳 様 (2016.2～/460万円) 株式会社バルコム 代表取締役 山坂 哲郎 様 「名誉校友」 (2015.12～/470万円)
---	---	--	--	---	--	---

(寄附開始年月/累計額)

ご芳名は、公開についてご承諾いただいた方を掲載させていただいています。掲載している情報は、ご寄附当時のものです。「特別校友」の称号については、誌面の都合により割愛させていただきました。

支援を受けた学生の声

短期留学が新たな目標のスタートに

タイ北部のチェンライ県にあるメーファールアン大学に8日間留学させていただきました。

短い期間ではありましたが、現地の歴史や文化に触れ、地元の人々の温かさに感銘を受けました。異なる文化で英語を使うことに戸惑いましたが、理解しようとしてくれる現地の方と友情を育むことができました。

そして、この留学を終え、私には専攻している建築について海外で学びたいという新たな目標が生まれました。長期留学には不安や困難があるかもしれませんが、目標を実現するために努力し続けたいと思います。

このプログラムの経費を広島大学基金で支援していただいたおかげで、経済的負担を大幅に軽減して留学することができました。今回の留学で得た経験を糧に、今後も一層修養を積み、自分の目標に近づけるように励んでまいります。



支援を受けた学生の紹介はこちらからもご覧いただけます。



大瀬良 渚さん
工学部第四類 3年

寄附に関してのお問い合わせ先：広島大学 基金室 (TEL:082-424-6132 / E-mail:kikin@office.hiroshima-u.ac.jp)



キャンパス
 今 昔

ファッション

開学間もなくは学生服を着用する学生が多かったようですが、そんな景色が一変したのが、大学紛争が終わりを告げた頃のこと。長髪にジーンズ、スニーカーなど、自由な装いで学生生活を過ごす人が多くなりました。そして現在もそれは変わらず。世間のトレンドが反映されたファッションが今日もキャンパスを彩ります。服装は自分らしさを表す手段。一人一人の個性を大切に、のびのびと学生生活を過ごしてくださいね。



広島大学の昔の写真を募集します。

青春を過ごした思い出の場所や、当時の雰囲気を感じられる風景など、ご自宅に眠る広島大学の写真を、エピソードと共に送ってください。読者の皆さんと一緒に昔を懐かしみましょう。ご応募はP28のHU ism投稿フォームまで。



100年後にも世界で光り輝く大学へ

広島大学



編集・発行：広島大学 広報室

〒739-8511 東広島市鏡山1-3-2 TEL:082-424-4383 FAX:082-424-6040

E-mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp

https://www.hiroshima-u.ac.jp

